



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月10日

上場取引所 東

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <https://www.kenkomayo.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長 （氏名） 炭井 孝志

問合せ先責任者（役職名） 取締役 （氏名） 立花 健二 TEL 03-5941-7682

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	20,085	9.9	344	△14.7	347	△16.4	244	△11.0
2022年3月期第1四半期	18,282	16.3	403	-	415	-	274	-

（注）包括利益 2023年3月期第1四半期 380百万円（0.7%） 2022年3月期第1四半期 377百万円（164.2%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	15.00	-
2022年3月期第1四半期	16.74	-

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	62,401	36,757	58.9
2022年3月期	61,760	36,539	59.2

（参考）自己資本 2023年3月期第1四半期 36,757百万円 2022年3月期 36,539百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	7.00	-	10.00	17.00
2023年3月期	-	-	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	-	-

（注）2023年3月期の配当につきましては、連結業績予想と同様の理由から未定としております。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

外国為替市場における急激な円安やウクライナ情勢などの地政学的リスク等、経済情勢が不透明な状態であることに加え、当社の主原料である食用油をはじめとする原材料価格やエネルギーコストの動向など、現時点では当社グループの業績に与える影響額を算出することが極めて困難であることから、未定としております。連結業績予想につきましては、合理的に予測可能となった時点で速やかに公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社、 除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料 9 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	16,476,000株	2022年3月期	16,476,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	200,578株	2022年3月期	200,578株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	16,275,422株	2022年3月期1Q	16,375,422株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

2023年3月期の業績予想につきましては、外国為替市場における急激な円安やウクライナ情勢などの地政学的リスク等、経済情勢が不透明な状態であることに加え、当社の主原料である食用油をはじめとする原材料価格やエネルギーコストの動向など、現時点では当社グループの業績に与える影響額を算出することが極めて困難であることから、未定としております。

なお、上記予想に関する事項は、添付資料 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	10
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）におけるわが国の経済は、2022年3月21日にまん延防止等重点措置の解除による活動制限の緩和を受け、経済社会活動が正常化され、飲食や旅行などのサービス消費は持ち直したものの、外国為替市場における急激な円安や原材料価格の高騰、ウクライナ情勢などの地政学的リスクによる世界経済への影響も懸念され、景気は依然として先行き不透明な状況となっております。また、食用油をはじめとした原材料価格やエネルギーコストの高騰が企業・家計のいずれにも大きな負担となり、食用油に関しては、現在も上昇傾向が続いているなど、引き続き厳しい状況が続いております。

このような事業環境の中、当社グループにおきましては、次の成長へ向けた中期経営計画『KENKO Transformation Plan』が2年目を迎えました。この中期経営計画は、前中期経営計画のCSV経営の考え方を継続し、社会と企業の共存を目指すために「企業価値の向上と持続的な成長に向けた変革」を基本方針とし、次の4つのテーマ及びサステナビリティ方針を軸に取り組みを進めております。

<4つのテーマ>

① B to B to C

Withコロナ、Afterコロナを見据えた上で従来からの取引先企業に加えて、消費者の皆様にも当社を知っていただく機会を増やす

② イノベーション

将来の地球環境を見据え環境保全を意識し、CSV・ESG・SDGsの観点を取り入れることで社会に必要とされる新しい事業「New KENKO」を創り出す

③ 構造改革

基盤事業の成長を目指すため、従業員のモチベーション向上に繋がる働き方改革や、業務改善を進めるシステムの再構築をはじめとした改革・改善活動を実施する

④ グローバル

輸出版売を拡大させるとともに、海外リサーチ拠点を活用した世界の食トレンドを取り入れた商品開発をはじめ、グローバル化に対応した人財強化などグローバル事業の基盤を強化する

<サステナビリティ方針>

当社グループは、持続可能な社会の実現に向け、「環境」「社会」「健康」への貢献を指標としたサステナビリティ方針を定め、次の5つの重要課題に取り組んでおります。

① 温室効果ガス、② 原料、③ 容器・包材、④ 健康、⑤ 人財

当第1四半期連結累計期間における売上高及び利益の概況は以下のとおりであります。

(売上高)

売上高につきましては、飲食店などで休業や営業時間短縮等の行動制限措置が解除されたことにより、外食分野をはじめ売上高の回復が進んだことやファストフード向け分野を中心に売上拡大を進めてまいりました結果、前年同四半期比で増収となりました。

(利益)

利益につきましては、原材料価格やエネルギーコストの高騰に対して、マヨネーズ類をはじめとした価格改定や売上高増加に伴う工場の稼働率向上、また経費削減等の収益改善を進めてまいりましたが、前年同四半期比で減益となりました。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は20,085百万円（前年同四半期比1,802百万円の増加、9.9%増）、連結営業利益は344百万円（前年同四半期比59百万円の減少、14.7%減）、連結経常利益は347百万円（前年同四半期比68百万円の減少、16.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は244百万円（前年同四半期比30百万円の減少、11.0%減）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各報告セグメントの状況は以下のとおりであります。

(調味料・加工食品事業)

主に外食分野をはじめ、当第1四半期連結累計期間においては経済活動の正常化への動きが進んだことなどを背景に売上高を増加させることができ、各商品群何れも前年同四半期比で増収となりました。各商品群における主な内容は次のとおりです。

サラダ・総菜類につきましては、主力商品の1kg形態のポテトサラダの売上高が回復したことやパンプキンサラダ等が増加しました。

タマゴ加工品につきましては、大手製パンメーカーやコンビニエンスストア向けのタマゴサラダが増加したこと、また厚焼き卵が外食チェーンやコンビニエンスストアで採用されたことにより増収となりました。

マヨネーズ・ドレッシング類につきましては、中期経営計画のテーマの一つである「B to B to C」に基づいたミドルサイズ商品やテイクアウト需要への対応に加えて、外食分野の主力商品であるマヨネーズの1kgの売上高が増加しました。また、昨年7月から進めてまいりましたマヨネーズ類の価格改定効果等も増収に大きく寄与いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は15,631百万円（前年同四半期比1,801百万円の増加、13.0%増）、セグメント利益は190百万円（前年同四半期比50百万円の減少、21.0%減）となりました。

(総菜関連事業等)

前連結会計年度までの経営環境は、外食から中食への需要のシフトが続いておりましたが、当第1四半期連結累計期間における外食需要の回復に伴い、量販店等の中食向け売上高は減収傾向にあり、利益についても減益となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は4,206百万円（前年同四半期比44百万円の減少、1.0%減）、セグメント利益は180百万円（前年同四半期比69百万円の減少、27.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、62,401百万円（前連結会計年度比640百万円の増加、1.0%増）となりました。これは主に売掛金が590百万円、現金及び預金が413百万円それぞれ増加した一方で、機械装置及び運搬具（純額）が445百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、25,643百万円（前連結会計年度比422百万円の増加、1.7%増）となりました。これは主に買掛金が971百万円増加した一方で、長期借入金が362百万円、未払法人税等が204百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、36,757百万円（前連結会計年度比218百万円の増加、0.6%増）となりました。

(自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、58.9%（前連結会計年度比0.3ポイント減）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、食用油をはじめとする原材料価格やエネルギーコストの動向など、現時点では当社グループの業績に与える影響額を算出することが極めて困難であることから、未定としております。今後、合理的に予測可能となった時点で速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,441	12,855
受取手形	119	72
売掛金	11,837	12,428
商品及び製品	2,082	2,343
仕掛品	9	17
原材料及び貯蔵品	917	943
その他	462	329
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	27,868	28,987
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	11,339	11,162
機械装置及び運搬具(純額)	9,174	8,729
土地	6,021	6,021
建設仮勘定	0	0
その他(純額)	353	326
有形固定資産合計	26,889	26,240
無形固定資産	290	381
投資その他の資産		
投資有価証券	5,360	5,450
繰延税金資産	161	122
その他	1,220	1,248
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	6,711	6,790
固定資産合計	33,892	33,413
資産合計	61,760	62,401

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,160	10,132
電子記録債務	711	842
1年内返済予定の長期借入金	1,449	1,449
未払法人税等	295	90
その他の引当金	463	214
その他	3,988	4,384
流動負債合計	16,068	17,113
固定負債		
長期借入金	5,466	5,103
役員退職慰労引当金	6	5
退職給付に係る負債	356	364
その他	3,323	3,057
固定負債合計	9,153	8,530
負債合計	25,221	25,643
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,424	5,424
資本剰余金	5,691	5,691
利益剰余金	24,153	24,235
自己株式	△332	△332
株主資本合計	34,936	35,018
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,389	1,265
為替換算調整勘定	220	480
退職給付に係る調整累計額	△7	△7
その他の包括利益累計額合計	1,602	1,739
純資産合計	36,539	36,757
負債純資産合計	61,760	62,401

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	18,282	20,085
売上原価	14,273	16,034
売上総利益	4,009	4,050
販売費及び一般管理費	3,606	3,706
営業利益	403	344
営業外収益		
持分法による投資利益	2	—
受取利息及び配当金	16	19
その他	22	25
営業外収益合計	41	45
営業外費用		
支払利息	20	16
持分法による投資損失	—	16
その他	9	9
営業外費用合計	29	42
経常利益	415	347
特別利益		
持分変動利益	—	24
投資有価証券売却益	1	—
補助金収入	3	1
特別利益合計	4	26
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	419	373
法人税等	145	129
四半期純利益	274	244
親会社株主に帰属する四半期純利益	274	244

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	274	244
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	81	△123
退職給付に係る調整額	18	0
持分法適用会社に対する持分相当額	3	259
その他の包括利益合計	103	136
四半期包括利益	377	380
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	377	380

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

連結子会社における税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。この変更による当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客への売上高	13,830	4,250	18,080	202	18,282	—	18,282
セグメント間の 内部売上高又は振替高	181	1,775	1,957	—	1,957	△1,957	—
計	14,011	6,026	20,037	202	20,239	△1,957	18,282
セグメント利益又は損失(△)	240	249	490	5	496	△80	415

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△80百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,631	4,206	19,837	247	20,085	—	20,085
セグメント間の 内部売上高又は振替高	230	1,881	2,112	—	2,112	△2,112	—
計	15,861	6,087	21,949	247	22,197	△2,112	20,085
セグメント利益又は損失(△)	190	180	370	△11	359	△11	347

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△11百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループの売上高は、顧客との契約から生じる収益であり、当社グループの報告セグメントを財又はサービスの種類別に分解した場合の内訳は、以下のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	4,235	—	4,235	—	4,235
タマゴ加工品	4,714	—	4,714	—	4,714
マヨネーズ・ドレッシング類	4,635	—	4,635	—	4,635
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	4,250	4,250	—	4,250
その他	244	—	244	202	447
外部顧客への売上高	13,830	4,250	18,080	202	18,282

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。

当第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	調味料・ 加工食品 事業	総菜関連 事業等	計		
サラダ・総菜類	4,251	—	4,251	—	4,251
タマゴ加工品	5,343	—	5,343	—	5,343
マヨネーズ・ドレッシング類	5,765	—	5,765	—	5,765
フレッシュサラダ・和惣菜等	—	4,206	4,206	—	4,206
その他	270	—	270	247	518
外部顧客への売上高	15,631	4,206	19,837	247	20,085

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ショップ事業、海外事業を含んでおります。